



# 米子の大庄屋 東近藤家が今に伝えるもの

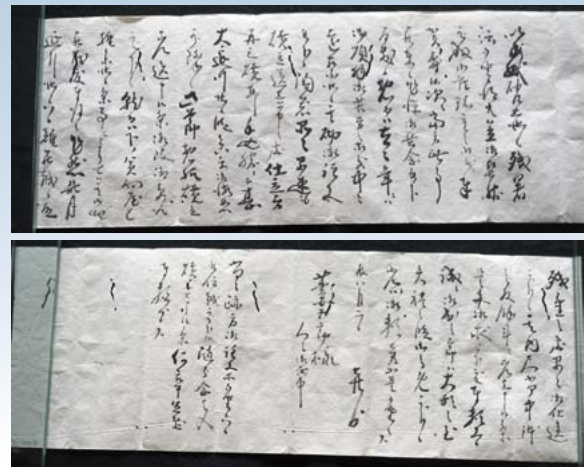
過日、鳥取市歴史博物館の学芸員・伊藤康晴さんから鳥取県立博物館発行の『鳥取県立博物館研究報告』第五号（2018年3月発行）の抜き刷りを送っていただきました。

それは「一字一石塔（宝塔）の造立過程～高草郡竹生村東近藤家文書より」というものです。なぜ、伊藤さんから当館に送られてきたかという、以前、館報No.92やNo.100でも紹介しましたが、米子市在住の池田兆一・純代ご夫妻から江戸時代後期の有田焼や古文書を当館に寄贈いただいたことがきっかけでした。

その折に、奥様の実家・東近藤家が大庄屋であったこと、母屋は焼失したものの、土蔵一棟が焼失を免れたこととその中に江戸時代中期から昭和の時代までの書籍や古文書、什器や衣類などがあり、処分を進めていた中に、どうも有田焼らしいものが数多くあり、さらには有田の人と交わした文書類もあるというので、有田町の参考になればという申し出で、たびたび米子市から有田町まで自家用車で運んでいただき、寄贈いただきました。

文書からは東近藤家の近藤萋五郎が有田を訪れ、直接、諸隈喜右衛門という窯焼きに大量の焼き物を発注し、それが米子に納められたことがわかり、また、天保期の有田焼の価格、運送経路などがわかる貴重なものでした。

話を伊藤さんの論文に戻しますと、池田さんは有田に関するものは有田町に、米子やその近隣に関わるものは鳥取県立博物館や鳥取市博物館へ、と分類して寄贈されました。その中に近藤萋五郎が建立した一字一石供養塔（文書では「宝塔」と称されている）の目的



有田の窯焼 諸隈喜右衛門から近藤萋五郎に宛てた手紙

や経緯・経費、それに関わった人々について具体的に記録されたものがあり、このような文書資料は稀有な存在だそうです。

本来、一字一石供養塔とは「小石を集めこれに一字ずつ経文を書写して地に埋め石塔を建てる習俗」とされ、江戸時代に流行したといわれています。

この「地に埋める」ことが一般的な中であって、近藤萋五郎が建立した宝塔に経文を記した石は残っていませんでした。千代川流域に生まれ育ち、度重なる洪水に襲われ水死した人々の供養のために、萋五郎は約七万点に及ぶ一字一石の経石を「経石流・きょうせきながし」と称して河川に流したことやその経費など、これまで明らかになることがほとんどなかった分野の事柄が池田家から寄贈された文書資料が明らかにしてくれたとのこと。

有田町に寄贈いただいた池田家の資料も鳥取県に関わる資料も、記録して遺すこと、伝えていくことの重要性を感じると伊藤さんはいいます。

古文書は地域の歴史を物語る貴重な資料であり、当館には池田家の資料のほかにも数多く残っています。残念なことに、これらの多くは翻刻作業が道半ばです。

幸い、有田町公民館と共催で毎年、「古文書教室」を開催していますので、今後、受講生の皆様を中心にこれらを翻刻することで、今までわからなかった有田町の歴史が解明されていくことを期待しています。

（尾崎 葉子）



# 皿 季刊 山

No.121

春  
2019

## 町屋で昔話を聞く会

有田町歴史民俗資料館の子どもたちを対象とした活動の一つに、「町屋で昔話を聞く会」があります。これは平成17年度（2005）から始めたもので、途中、行事が重なって開催できない年もありましたが、今回で11回目となります。

有田町には平成3年度に国の選定を受けた重要伝統的建造物群があります。毎年、文化財課の事業としてそのうちの数軒の修理事業が実施されていますが、それらは個人の所有が多く、なかなか家の中に入って見学することが難しいことから、無理を申し上げて座敷などをお借りし、有田町公民館の事業である「キッズ・チャレンジ」の子ども達を対象に表記の会を開催しています。

今回は昨年12月に国の重要文化財に指定された本幸平の旧田代家西洋館の付属施設である蔵で開催しました。

昔話を語っていただくのは、当初より町内で読み聞かせのボランティア活動を続けていらっしゃる「ひこうせん」の八尋典子さん、橋口順子さん、林洋子さんの三人の方々をお願いしています。今回も寒い中にお越しいただきました。

まず「黒髪山の太蛇退治」の紙芝居、これは以前田中宏子さん（現在東図書館勤務）に作っていただいたもので、有田弁で話していただきました。絵本は「天のかみさま 金んつなください」を読んでもいただきました。

会場の西洋館蔵は少し狭いのですが、子どもたちは静かに、楽しそうに聞いていました。



## お抹茶体験



前述したように、昨年本幸平の旧田代家西洋館が新たに国の重要文化財に指定されました。長い間、町民の方には「異人館」として親しまれてきました。昭和52年（1977）に佐賀県の重要文化財に指定されていた建物でしたが、今回、国指定となった段階で、名称が改まりました。

明治9年（1876）、田代助作によって建築以来、代々田代家で守ってこられたことから、「旧田代家」という表記が入り、住まいではなく、海外からの来訪者をもてなす建物である意味合いから西洋館となりました。

これまでの経緯を少し説明しますと、平成25年（2013）に田代家から有田町に寄贈され、佐賀県の補助を受け有田町が主体となって修復原事業を行いました。

その際、修理検討委員会では建設当時の明治9年（1876）の姿に戻すことが決まり、建物の記憶ともいえる、痕跡を丹念に調べながら事業が進みました。

そして、有田焼創業400年の年である平成28年（2016）に修理事業が完了し、その年の10月にお披露目会を開催して、翌年の平成29年（2017）から土、日、祝祭日と陶器市や秋の陶磁器まつりなどの期間に開館しています。

今回、国の重要文化財に指定を受けたことを記



念して、子孫の田代佐夫子さん（田代家子孫で佐世保市在住）に「町屋で昔話を聞く会」終了後に、子ども達に表千家のお点前の披露をしていただけないかと相談したところ、快諾いただき開催の運びとなりました。

本格的なお茶の体験は初めてという子供たちもいて、会場となった「旧田代家西洋館」の2階は緊張した雰囲気が始まりました。せっかくだからと、電気の風炉を持ち込んでお点前も披露していただきました。懐紙の上には季節を表したきれいな主菓子「咲き分け」や干菓子「うぐいす」などに、子どもたちは大喜び。

実は西洋館は文化財ということで、水回りや火の気のあるものは全く準備されていません。

しかしながら、明治9年のころにはストーブもファンヒーターもない時代で、当時の冬の寒さも体感してもらったのではないかと思います。

今回のお点前には、田代さんの他に佐賀市から友田ヒサエさん、有田町内の松尾シズ子さん、長島昭子さん、木原恭子さんと佐世保市から中島百合子さんの6名の皆様が着物を召して接待してくださいました。

日本の伝統を子どもたちに伝えたいという思いの田代さんたちのご協力で「旧田代家西洋館」の国重要文化財指定祝賀行事の一つとしても開催できました。「ひこうせん」の皆様、田代さんとその関係者に心からお礼申し上げます。

## 『唐船山 三星鑑』 - 唐船城・有田氏編 - を販売しています。

2018年に築城から800年を迎えた唐船城は、はじめて有田一帯を包括的に治めた有田氏の居城です。それに伴い2018年には記念式典やイベント、清掃ウォークや発掘調査など様々な事業を行ってきました。その事業のひとつに『唐船山 三星鑑』のダイジェスト版作製事業がありました。これまで三星鑑は大正14年に現山田神社宮司の椎谷智周氏の祖父で椎谷孟保氏によって著されて以来、唐船城を調べるうえで最も重要な歴史書でしたが、公刊されることなく一般的に公開はされてきませんでした。その三星鑑が今回の800年を記念して唐船城・有田氏編として部分抜粋し、多くの方に有田の唐船城を知ってもらい、これからの唐船城の活用、そして今後の調査研究のため、刊行いたしました。本書については2月より有田町歴史民俗資料館で販売しています。詳しくは、有田町歴史民俗資料館までお問い合わせください。

（伊達 惇一郎）



『唐船山 三星鑑』



## 第65回文化財防火デーを 実施しました

昭和24年1月26日に、修復中の奈良・法隆寺金堂から出火した火災によって、金堂内の壁画の大半が焼失してしまいました。世界的な文化遺産が被災したことで、この日を「文化財防火デー」と定め、全国的な防火運動が展開されています。

有田町においても、1月27日(日)に、旧田代家西洋館（有田異人館）において火災消火等の訓練を実施しました。旧田代家西洋館は平成30年12月25日付で国

の重要文化財（建造物）に指定されました。今回は、西洋館の一室で火災が発生したという想定での訓練で、発見者による初期消火、通報訓練を行い、一般の方の避難誘導、消防署員や地元消防団による放水消火訓練、町民参加の消火器取り扱い訓練など、火災等の発生に欠かせない訓練を体験しました。訓練後は文化財課職員による西洋館の解説と自由見学で終了しました。

災害が起こらないことが何よりなのですが、万一が発生した場合でも、冷静に対処できるように、シミュレーションをしておくこと、また、大切な文化財を次の世代へ伝えていくための訓練でもあります。

（伊達 惇一郎）



初期消火



消防車到着



放水訓練



放水訓練



消火器取扱い訓練

## 季刊『皿山』

通巻 121 号（平成 31 年 3 月 1 日）

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目 4-1

☎ 0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL : <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>